

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の教育目標「自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる」の達成を目指すとともに、本校の現状と課題を踏まえ、以下の3項目を重点課題として取り組みました。それぞれ設定した目標について、ほぼ達成することができました。

(1) 今の学びを将来につなぐ深い学びの在り方について

小学部・中学部・高等部の各研究グループで、児童生徒が今の学びの意味や将来とのつながりに気付く単元づくりを通じたキャリア教育の推進を図った。取組では、児童生徒のキャリア発達に結びつく効果的な振り返りの在り方に視点を当て、単元計画の作成及び授業実践に係る検討会を各学部の研究グループで単元ごとに実施した。また、外部講師を招いて講演会を実施し、本研究について助言をいただいた。単元途中や単元終了後の各研究グループの検討会で、「児童生徒が自身の思いや学びの意味に気付き、将来とのつながりを実感できた事例」や「児童生徒が主体的に学び、生活や将来に活かそうとする姿が見られた事例」が複数挙がり、児童生徒のキャリア発達を促す授業の成果等がみられた。

(2) 危機管理マニュアルの充実による災害、事件・事故、感染症等の学校安全及び学校保健に対する教職員の危機管理意識の向上と危機管理体制の充実

火災・震災・不審者対応・行方不明等に関する既存の危機管理マニュアルについて、様々な事案や状況を想定して見直し、構成および内容の充実を図った。また、学校保健に係る救急対応・緊急対応・感染症予防等のマニュアルも同様に整理し、学校安全に関するマニュアルと合わせて一元化したファイルを作成し、年度末までに要所に配備し、危機管理体制を整えた。新たな緊急時対応マニュアルを使った卓上訓練では、教職員全員が役割を交替して実施し、訓練前後で教職員の自信度アンケートを実施し、緊急時対応の理解度や自信を持った対応の点で顕著な向上がみられた。

(3) キャリア教育の推進に向けたアフターケア及び就業体験等の進路支援情報の効果的な活用

進路学習会「先輩と語ろう」では、生徒に卒業生の就業体験やアフターケアの事例を紹介し、生徒が興味・関心を高められるよう指導・支援を行った。その結果、卒業生の講演で質疑応答が活発となった。また、進路学習を深い学びにするための単元づくりでは、アフターケアや就業体験に関する情報を整理した教材を作成し、授業で活用できるようにした。前期・後期の就業体験およびアフターケアの実施後には、生徒・保護者・事業者から得た情報を基に、今の学びを卒業後の生活にどう生かせるかについて具体例を挙げながら教職員間で共有し、「進路の手引き」と関連付けて理解を深めた。進路関連情報の提供で教職員のキャリア教育に対する意識がどのように変化したかを明らかにするとともに、ニーズの高い進路関連情報を把握するための教職員アンケートを実施し、効果的な情報提供を行った。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 学校の取組を積極的に地域に発信するとともに、地域や保護者、関係事業所等と一層の連携を図り、引き続き児童生徒が地域に溶け込みやすい環境づくりに努める。
- (2) 地域との交流の機会を生かした取組及び地域人材や地域事業所等を活用した取組の推進により、地域との関わりを一層深め、児童生徒が社会で発揮できる力、活躍できる力の育成に努める。
- (3) 児童生徒が運動の楽しさを味わうことができる取組を通して意欲を高め、主体的に体力の向上や健康を維持、増進する取組を継続するとともに、学校安全に係る取組を継続して教職員の危機管理体制を整え、児童生徒が社会生活で生かすことができる安全教育に努める。

8 学校アクションプラン

令和7年度 となみ総合支援学校アクションプラン -1- <研修部>	
重点項目	学習活動
重点課題	今の学びを将来につなぐ深い学びの在り方について ～児童生徒が学びの意味や将来とのつながりに気付く単元づくりを通して～
現 状	本校では2年計画で学校課題研究を行っている。1年目の令和6年度は、児童生徒が「目標を達成できた」「分かった」と気付き、「もっと知りたい」「さらに挑戦したい」という次の学びの意欲を高めることができるよう、「振り返り」に焦点を当てた授業づくりに取り組んだ。取組の成果として、児童生徒の「自ら目標を設定して主体的に学習に取り組む様子」や「自身の学びの過程や変容を自覚する姿」が見られたが、単元の目標達成や学びを生活に活かす力につなげる単元づくりが学校課題研究の2年目の課題として挙がっている。
達成目標	小学部・中学部・高等部の各研究グループで、振り返りの視点を柱にした単元計画の作成及び授業実践に係る検討会の実施 1単元（題材）につき3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会を実施し、研究主題と前年度の取組の課題について共通理解を図る。 ・キャリア教育の推進に当たり、進路支援部と連携して進路支援及び生活支援に係る情報を活用する。 ・単元計画の作成及び授業実践は、児童生徒が「自分の思いと学びの意味」や「将来とのつながり」に気付くことができるように、効果的な「振り返り」を大切にする視点で進める。 ・単元づくりでは、外部講師を招いて講演会を実施し、本研究について助言をいただく。 ・研究の成果と課題は、各学部の研究グループで整理して学部ごとにまとめる。また、「児童生徒が自身の思いや学びの意味に気付き、将来とのつながりを実感できた事例」や「児童生徒が主体的に学び、生活や将来に活かそうとする姿が見られた事例」等を学校全体で共有し、日々の授業実践に活用する。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の全体研修会で今年度の取組について共通理解を図ると共に、研究を進めるうえで基本となるキャリア教育について理解を深めるようにした。 ・児童生徒一人一人のキャリア発達に結びつくような、効果的な「振り返り」に視点をおいた単元計画の作成及び授業実践のため、各研究グループで単元開始前や単元の途中で随時検討会を行った。 ・進路支援部が実施した進路ミニ研修会（8月、1月）や卒業生の就業先のアフターケアなどで得た情報を参考にして、学校生活や授業において必要な事柄を取り入れた支援を行った。（高等部の作業学習、日常の挨拶など） ・9月に富山大学教育学部教授の和田充紀氏を招き、公開授業担当者との懇談、学校課題研究担当者との懇談、講演会において、本研究について助言をいただいた。 ・11月に学部ごとに各研究グループの研究の成果と課題について共有した。 ・12月に各学部一つずつの研究グループが研究の成果と課題を発表し、学校全体で共有した。 ・学校課題研究終了後、アンケートを実施し、研究の成果と今後の課題についてまとめた。
評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部3つ、中学部2つ、高等部2つのいずれの研究グループも、「振り返り」の在り方に視点を当てた単元計画作成及び授業実践に係る検討会を5～8回行った。 ・単元の区切りなどでこまめに検討する機会を設けることで、意見や情報の共有ができた、児童生徒の変容が分かった、深い学びの姿も見付けられるようになったなどの声が聞かれた。 ・単元途中や単元終了後の各研究グループの検討会で、「児童生徒が自身の思いや学びの意味に気付き、将来とのつながりを実感できた事例」や「児童生徒が主体的に学び、生活や将来に活かそうとする姿が見られた事例」が複数挙がり、児童生徒のキャリア発達を促す授業を行うことができ、成果がみられた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの授業を重ねること、キャリア教育について全教職員が共有することが大事である。 ・働き方改革の観点からも検討会の回数が多くなり過ぎないように気を付けるとよい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育についてさらに理解を深め、今後も児童生徒への支援に活かしていくことが必要である。 ・授業や児童生徒への支援について教員間で話し合うことの良さを感じることができたので、今後、Teams等を利用して時間短縮を図りながら、こまめに情報共有することを続けていきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 2 - <生徒指導部・保健部>

重点項目	学校生活	
重点課題	危機管理マニュアルの充実による災害、事件・事故、感染症等の学校安全及び学校保健に対する教職員の危機管理意識の向上と危機管理体制の充実	
現 状	本校では、災害、事件・事故、感染症等の発生時に備え、様々な想定で対応訓練を実施している。各対応訓練に係る対応マニュアル等は担当分掌で管理し、その都度、見直し、更新しているが、関係書類が一元集約できておらず、危機管理体制が十分とはいえない状況にある。また、毎年、対応マニュアルごとに内容の見直し、更新を図っているが、近年の自然災害の甚大化、事件・事故、感染症等の発生状況から、これまで以上に様々な想定で対応マニュアルを充実させる必要がある。	
達成目標	<生徒指導部> ①学校安全に係る対応マニュアルを更新、集約して「危機管理マニュアル」(新)に一元化し、学校の危機管理体制の充実を図る。 ②「危機管理マニュアル」(新)の配備により、学校安全に係る危機管理意識が高まり、各対応についておおむね理解できた教職員の割合(アンケート調査より)	<保健部> ①学校保健に係る対応マニュアルを更新、集約して「危機管理マニュアル」(新)に一元化し、学校の危機管理体制の充実を図る。 ②「危機管理マニュアル」(新)の配備により、学校保健に係る危機管理意識が高まり、各対応への自信が高まった教職員の割合(アンケート調査より)
	①100% ②70%以上	①100% ②70%以上
方 策	<生徒指導部> ・火災・震災・不審者対応・行方不明等の既存の危機管理マニュアルを様々な事案や想定で見直し、構成や内容の充実を図る。 ・学校保健に係る対応マニュアルと合わせて一元化したファイルを作成し、要所に配備することにより、危機管理体制の充実を図る。 ・教職員アンケートにより、理解度チェックを行うとともに、今後、PDCAサイクルで、危機管理マニュアル(学校安全)を改善、更新する体制を整える。	<保健部> ・救急対応・緊急対応・感染症予防等の学校保健に係る既存の対応マニュアルについて、様々な事案や想定で見直し、構成や内容の充実を図る。 ・学校安全に係る対応マニュアルを合わせて一元化したファイルを作成し、要所に配備することにより、危機管理体制の充実を図る。 ・教職員アンケートにより、理解度チェックを行うとともに、今後、PDCAサイクルで、危機管理マニュアル(学校保健)を改善、更新する体制を整える。
具体的な取組状況	①「危機管理マニュアル」(新)は、防災、震災、防犯、事故、事件、自然災害、行方不明時、避難所開設、通学の9項目とし、未然防止・緊急時発生・事後対応を基本とした。また、「防犯対応マニュアル」を基に、8月の不審者侵入時対応訓練を行った。年度末までにファイルにて配付予定。 ②教職員に「防犯対応マニュアル」の不審者侵入の対応力に関するアンケートを行った。	①内規の見直しを図り、現状に即して改定した。また、既存の危機管理マニュアルを見直し、熱中症対応の新マニュアルを追加した。 ②既存の緊急時対応マニュアルを見直し、アクションカードの活用等の改良をした。また、全教職員がA S U K Aモデル動画の視聴し、役割(第一発見者、指示者、緊急放送・AED・保護者連絡、記録)を交替する卓上訓練を行った。訓練前後には、自信度アンケートを実施した。
評 価	① A ② A	① A ② A
	①新マニュアルは、素案の状態であり、今後の改善を要するが、年度末までにファイルを配備し、緊急時に活用できる体制を整える。 ②訓練後4か月に実施の1回目は60%の正答率、マニュアルを確認しながらの2回目の正答率は89%で平均は74.5%だった。	①現状に即した新マニュアルを作成し、年度末までに新ファイルを要所に配備する。今後は、訓練や実際の緊急時にマニュアルを活用し、必要に応じて見直し・修正を図る。 ②事前アンケートでは「自信をもって対応できる」6%、「少し不安だが周り協力して対応できる」69%、合計75%だったが、訓練後は、合計98%に向上した。
学校関係者の意見	・危機管理マニュアルを作ること自体は大事だが、教職員への内容の周知や実際の現場で確実に対応できるようにすることが大事である。緊急時に誰が判断して対応するのか明確にしておくことが重要である。 ・訓練後のアンケートで、対応方法に対する教職員の理解度や自信度を確認した点はよい。	
次年度への課題	・今年度作成した危機管理マニュアルを訓練や実際の緊急時に活用し、明らかになった課題や改善点を整理し、必要に応じて見直しと修正を行い継続的に更新していく。 ・年度当初に教職員に危機管理マニュアルの内容を周知し、緊急事態に備える。緊急時に迅速かつ適切に対応できるよう教職員がマニュアルを理解し、活用できる体制を整える。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 3 - <進路支援部>

重点項目	進路支援	
重点課題	キャリア教育の推進に向けたアフターケア及び就業体験等の進路支援情報の効果的な活用	
現 状	進路支援に関する情報活用については、主に高等部の教職員を対象に、保護者を対象とした研修会「先輩保護者に学ぶ」への参加の促しや「進路の手引き」を配付して将来の社会生活に向けて身に付けたい力や進路決定までの流れを示して、小学部から高等部までの進路支援の在り方を共有できるようにしている。しかし、高等部を含め、進路先と関わる機会の少ない教職員は、高等部卒業後の就労生活に触れることが少ないため、各学部の学習がキャリア教育のどの位置付けかという意識をもちづらく、児童生徒の社会参加と自立に向けて意識を高める関わりや学習活動の設定などが不足している。	
達成目標	<p><生徒>高等部卒業後の姿をイメージし、希望、目標、課題を意識できる学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路学習会「先輩と語ろう」の事前、事後学習及び教材作成の改善 ・アフターケア及び就業体験の情報を活用した学習活動の設定（高等部各学年） <p><教員>児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進するための進路関連情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターケア及び就業体験など、卒業後の生活に関する情報提供 ・進路関連情報の提供によるキャリア教育への教員の意識向上（アンケート調査の実施） 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習会「先輩と語ろう」の事前学習で、先輩の就業体験の様々な事例やアフターケアの情報等を生徒に提供するなど、在校生徒が興味、関心を高め、先輩の講演及び質疑応答が活発なものとなるよう効果的な指導、支援を行う。また、各学年・学習グループで行っている振り返りを生徒全員が共有できるようにする。 ・深い学びにつながる単元づくりに向けて、アフターケアや就業体験等の情報を整理した教材を作成し、授業で生徒が活用できるようにする。 ・前期及び後期の就業体験やアフターケアの実施後、教職員に向けて生徒や保護者、事業者の担当者から得た情報をもとに、将来の社会生活に向けた学習がどのように卒業後の生活に生かされるかについて、「進路の手引き」の冊子と関連付けて、成果と課題を具体例を示して情報を共有する。 ・進路関連情報の提供による教職員のキャリア教育に対する意識の変化や更に得たい情報等をアンケート調査で把握し、よりニーズの高い情報を提供する。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部全体で「先輩と語ろう」の事前学習を行い、過去2年間の先輩の事例やアフターケアの様子を紹介した。また、生徒たちが考えた先輩への質問を事前に伝えておくことで、当日の講演で答えてもらうようにした。事後学習では、振り返りシートを、「個人」「学習グループ」「学部での振り返り後」の3種類準備した。学部で共有した内容を基に、個々の生徒が後期就業体験・校内実習で目指す姿を具体化するようにした。 ・就業体験の事前・事後学習に使用する「就業体験のしおり」を継続して使用した。アフターケアや就業体験等の情報を整理した教材を新たに作成することは行わなかったが、得た情報を授業や就業体験報告会で生徒に伝え、卒業後の生活を考える機会を設定した。 ・前期・後期の就業体験後に、教員対象のミニ研修会（各15分程度）を実施した。前期は「進路の手引き」と関連付けて、キャリア教育で育みたい4つの基礎的・汎用的能力について成果と課題を共有した。後期は、教員アンケートで要望が多かった「進路決定までの流れ」や「事業所で求められること」、「卒業後の生活」等について解説し、情報の共有を図った。 ・教職員のキャリア教育に対する意識の変化や、指導に必要な情報を把握するために、アンケートを2回実施した。12月の調査で明らかになった現場のニーズや疑問点は、1月のミニ研修会の内容に反映させ、教員の意識向上と実践力強化につなげた。 	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「先輩と語ろう」の事前学習により、例年以上に生徒から質問が上がった。また、事後学習を重ねることで、社会人に向けて大切だと思うことについて、6割の生徒に意識の変化がみられた。就業体験での自分の経験とアフターケアで聞いた先輩の姿から、自分の卒業後の姿を、仕事面だけでなく生活面も含めて考える生徒がみられた。 ・進路ミニ研修会を行ったことで、進路選択・決定、卒業後の生活について、9割以上の教員の理解が高まった。また、約9割の教員が教育活動を設定する際にキャリア教育を意識することがあった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが学んだことを振り返り、自分を見つめる機会を設定していることはよい取組だと思う。学んだことを生かしたり、表現したりして生活を改善するところまで行うとよい。 ・卒業生の中には目標を意識せずに働いている人もいるので、目標をもって努力したり、夢をもったりするような取組を続けてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が卒業後の生活をイメージし、目標や夢をもてるように、アフターケアや就業体験の情報を生徒が活用できるような教材を作成し、学習活動を設定するよう努める。 ・教員がキャリア教育の視点をもって、日々の教育活動を設定できるように研修の機会を設けるなど、教員の取組や情報の共有に努める。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)